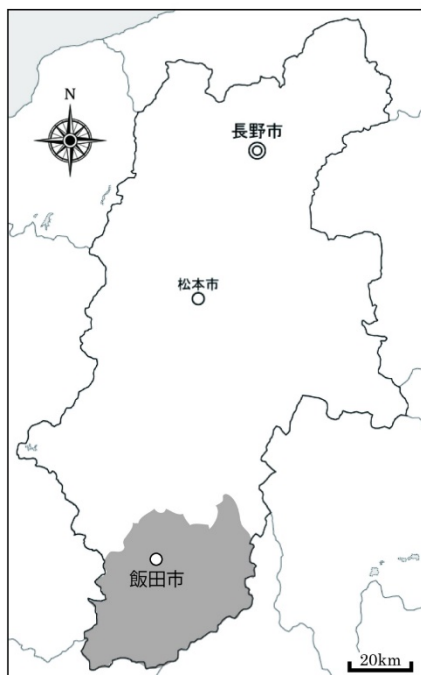


長野県飯田下伊那地域における 満洲農業移民史調査記

新谷千布美

長野県の飯田下伊那地域は、満洲への農業移民・満蒙開拓青少年義勇軍の送出数が全国で最も多かった⁽¹⁾。研究会では、2015年4月18日に阿智村にある満蒙開拓平和記念館を訪れた⁽²⁾。あわせて飯田市歴史研究所を訪問し、「満蒙開拓を語りつぐ会」の活動についてお話をうかがった⁽³⁾。本稿は上記の施設および団体を紹介するものである。



長野県全域および飯田下伊那地域地図（筆者作成）

1 満蒙開拓平和記念館

(1) 沿革

満蒙開拓平和記念館（以下、記念館）は、「満蒙開拓」の歴史に特化した民営施設である。両親が開拓団員であった寺沢秀文氏（現満蒙開拓平和記念館専務理事）を中心とした飯田日中友好協会が2006年から建設を計画し⁽⁴⁾、2013年4月に開館した。開館後の2年間で6万人が訪れている。施設の規模は大きくないが、一般市民向けにわかりやすく、また「戦争の悲惨さ、平和の尊さ」というメッセージをこめて展示・解説されている。



満蒙開拓平和記念館

撮影日：2015年4月18日

撮影者：大野絢也

(2) 所蔵史資料

関係者や来館者から寄贈された所蔵史

資料は2000点を超える。一部は学習室で閲覧できるが、大部分は収蔵庫に保管・整理中である。今回特別に収蔵庫を見学させていただき、私家版の手記や回顧録、義勇隊の旗など貴重な資料が収蔵されていることを確認できた。今後の公開に期待したい。

2 飯田市歴史研究所

(1) 沿革

飯田市歴史研究所（以下、歴研）は、2003年に飯田市によって設立された研究所である。近世史分野の研究のみならず、満洲移民研究も盛んである。



宮下功『満洲紀行』原本
撮影日：2015年4月18日
撮影者：大野絢也

(2) 所蔵史資料

具体的には、移民送出時の役場資料や個人の日記などが保存・研究されている。たとえば、歴研で現在翻刻作業中の『満洲紀行』は、1943年当時この地域で教員であった宮下功が約40日間満洲を視察

した際の紀行文である（全13巻）。訪問時に原本を確認させていただいたところ、現地で得た教科書・子供の作品・草花・名刺なども綴じ込められており、比類のない資料であった。

3 「満蒙開拓を語りつぐ会」

(1) 沿革

満蒙開拓を語りつぐ会（以下、語りつぐ会）とは、飯田下伊那地域に住む満洲体験者を対象にライフヒストリーの聞き取りを行ってきた市民活動団体である。2002年に、満洲移民について研究する蘭信三氏（当時京都大学助教授）の提案を受けて、長沼計司氏（当時飯田日中友好協会理事長）と齊藤俊江氏（当時飯田市誌編纂室）が賛同して活動が始まった。成果として『下伊那のなかの満洲』（全10巻）および別冊記録集が刊行されている。語りつぐ会は2013年4月に解散したが、理念・財産等を継承した満洲移民を考える会が発足している。



『下伊那のなかの満洲』ほか
撮影日：2015年4月18日
撮影者：湯川真樹江

(2) 活動内容

『下伊那のなかの満洲』(全10巻)には85名の声が採録されている⁽⁵⁾。聞き取りの直後に亡くなった満洲体験者もあり、タイムリミットの前に彼らの言葉を後世に残した意義は大きい。また、ライフストーリーの形で書き残されているため、渡満前の生活や引揚げ後の生活再建についても第三者が分析できる史資料となっている。

また、現在の満洲移民を考える会は、聞き書きだけでなく学術研究も行っており、報告書を年1回刊行している⁽⁶⁾。満洲移民の歴史について地域に根差した考察を深めている。

4 結びに代えて

飯田下伊那地域は、満洲移民が非常に多く送出された地域である。これは、単に貴重な史資料や満洲体験者が多いというだけではない。送出を推進した側の人物や、家族を満洲で喪った人物が多いことでもある。地域の複雑な人間関係の中で、また引揚者に向けられる差別的なまなざしの中で、満洲からの生還者の声は長年公にされにくかった⁽⁷⁾。

しかし2000年代に入ってから、本稿で紹介した諸団体の活動が活発になった。これにより、満洲体験者と地域住民の間に交流が生まれた。この変化こそ、最も貴重な意義を持つと筆者は考える。

最後になるが、今回の訪問を受け入れてくださった満蒙開拓平和記念館の寺沢

秀文氏、飯田市歴史研究所の齊藤俊江氏にこの場を借りて心より御礼申し上げる。

⁽¹⁾ 飯田歴史研究所編『満洲移民—飯田下伊那からのメッセージ』現代史料出版、2007年、5頁。

⁽²⁾ 長野県下伊那郡阿智村駒場711-10

<http://www.manmoukinenkan.com/>

⁽³⁾ 長野県飯田市上郷飯沼3145

<https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/>

⁽⁴⁾ 飯田日中友好協会の母体も元開拓団員を中心に結成された。飯田日中友好協会50年誌編集委員会編『友好の架け橋—飯田日中友好協会50年の歩み』飯田日中友好協会50年誌編集委員会、2013年、26-27頁、参照。

⁽⁵⁾ 詳細は、満蒙開拓を語りつぐ会編『下伊那のなかの満洲 別冊記録集』(2012年)巻末の一覧を参照のこと。

⁽⁶⁾ 満洲移民を考える会編『聞き書きと調査研究 下伊那から満洲を考える』第1号、2014年および同第2号、2015年。

⁽⁷⁾ 記念館の寺沢秀文氏は、「満蒙開拓」は地域にとって「不都合な歴史」であったと形容する。寺沢秀文「語り継ぐ『満蒙開拓』の史実—「満蒙開拓平和記念館」の建設実現まで」(『信濃』65巻3号、2013年)参照。また語りつぐ会の側にも同様の認識がある。本島和人「満洲体験者と市民の出会い—地域で満洲体験を語り継ぐこと」(『日本オーラルヒストリー研究』2号、2006年)参照。